

アルミ圧延品、二次合金生産とも引き続き二桁増

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

■アルミニウム国内自動車販売の好調を背景に増加

七年前半は六月の米生産者物価指数(PPI)が予想を上回ると六月の米消費者物価指数(CPI)が予想を大きく上回ったことなどのプラス材料もあったが、六月の米生産者物価指数(PPI)が予想を上回る一〇年ぶりの上昇となつたことによるインフレ懸念と中国需要懸念を嫌気しLMEアルミニ相場はDOWN、七月十五日時点で一〇・五ドルDOWNの前半終めとなつた。

後半は東南アジアでの豪雨株感染拡大、世界的なデルタ株感染拡大による需要低下懸念などのマイナス材料あつたが、米連邦準備理事会(FRB)パウエル議長の講会証言で、金融緩和の感覚化が明らかになつたこと、欧洲中央銀行(ECB)に続いて米国の金融緩和見通しを受けた懸念と復興期待と欧米の株高を好感しLMEアルミニ相場はUP、七月末日現在、後半スタート価格から六一・五ドルUPの一五五六・五ドル。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、七月は前年比四一・四%増の六九万四一二四台。

輸出七六・三%増の三三万九〇一四台。

◆月間のドル／円レート (TTS)

一一一六六一一〇・七三(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車販売協会連合会によると、七月は前年比四一・四%増の六九万四一二四台。

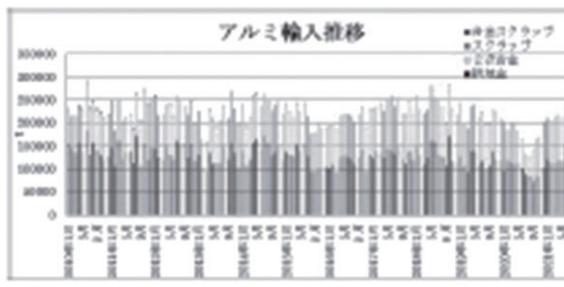
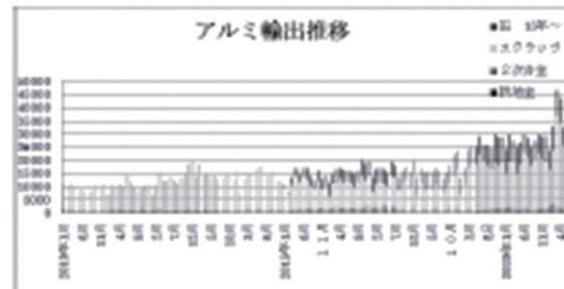
輸出七六・三%増の三三万九〇一四台。

◆新設住宅着工戸数

年同月比七・三%増と、三カ月連続の増加。前年比一・〇%減と、一ヶ月連続の減少。

◆貿易逆差指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム輸出



■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二五・一%増の一六万八、一〇一tと六カ月連続プラス。

日本アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比七四%増の七万二一九七tと八カ月連続プラス。出荷は七三・四%増の七万二〇二六tと八カ月連続プラス。

■国内概況まとめ

【自動車生産】

日本自動車販売協会連合会によると、七月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三・三%増の一四万七、一四八台。

うち乗用車一・五%増、貨物九%増、バス三三・三%減。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、七月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三・三%増の一四万七、一四八台。

うち乗用車一・五%増、貨物九%増、バス三三・三%減。

輸入は新地金が前年比五一・六%増の一五〇二、九一八t、一次合金が四四・九%増の八万七、九六六t、スクラップが〇・八%増の六・四t、合金スクラップは五七八、九五四t。

地金が前年比四五%減の一二〇t、二次合金が二・四%増の一二〇六t、スクラップが二一・六%増の九、〇〇五t。

スクランブル景況予想、流通在庫の玉薄はなお続くか

(西面より続く)

【住宅着工戸数】

六月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び賃貸が増加したため、全体で前年同月比七・三%の増加となつた。また、季節調整済年率換算値では前月比一〇%の減少となつた。

新設住宅着工戸数は七万六、三二一戸で前年同月比七・三%増と、四カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は六、二九五千戸で前年同月比七・四%増と、三カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では八万六千戸で前年比一〇%減、「一カ月連続の減少」。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一五・一%増の一六万八、一〇一tと六カ月連続プラス。

このうち板類は一〇万四、三四五tで二四%増と六カ月連続プラス、押出類は六万三、七五六tで一七・一%増と四カ月連続プラス。「アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績」前年比七四%増の七万二九七tと八カ月連続プラス、出荷は七三四%増の七万三〇六tと八カ月連続プラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比四・五%減の二一〇t、一次合金が二・四%増の二一〇t、スクランブルが四〇・一%増の二九八、七一七t、アルミ缶が二六・六%増の九〇〇五t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比五一・六%増の一五万三、九一八t、一次合金が四四・九%増の八万七、九六六t、スクランブルが〇・八%増の六二四t、合金スクラップが五七・八%増の四、五三四t。

【見通し】

六月の自動車生産が四一・四%増。七月国内販売台数が前年比三・三%増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。ただし販売の増加率が縮小してきている。今後生産、特に販売が増加していくか注視。
・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一五・一%増の一六万八、一〇一tと六カ月連続プラス。

今後プラスが続くかの動向に注視。
・日本アルミニウム合金協会によると、アル

ミニウム一次合金・同合金地金等生産実績は前年比七四%増の七万二九七tと八カ月連続

プラス、出荷は七三・四%増の七万三〇六tと八カ月連続プラス。

・アルミ輸入は国内自動車販売の好調から大幅増。

需要面に懸念しては、前月に続き販売が堅調な好調なことを受けて、アルミ地金以外大幅増。

・アルミ輸入は国内自動車販売の好調から大幅増。

【スクランブル景況予想】

流通(一次卸屋)在庫は、LME価格が一五〇〇~一六〇〇ドル台で高止まりしたことから玉不足は続く。

事による材料不足や国際相場の高騰からの輸入玉の不足から、メーカー在庫は希薄。

【LME・易替予想】

今月は①コロナ感染拡大動向(デルタ株による)②米中の景気動向に左右される。

①に関しては

ワクチン接種によって感染拡大が治まった欧米が、新株(デルタ株)に再び感染拡大の危機に陥っている。ただ、感染はするが実際のところ死者数は漸減に減った。例えば人口の七二%がワクチン接種を終えている英国では死亡率がほぼゼロになつてきており、感染拡大が防げるのではないか?

②に関しては

直近の景気指標で中国が七月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は五五・四と、前月の五〇・九から低下し、中国政府が新型コロナウイルス対策でロックダウン(都市封鎖)を開始した二〇二〇年二月(三五・七)以降で最低となつたこと。米国も七月の米製造業景況指数は五九・五と前月から低下し、ダウ・ジョーンズまとめの市場予想(六〇・八程度)も下回ったことなどから追加的景気対策が無ければ失速するのではないか?

これらを踏まえた八月のアルミ価格は、二五〇〇~二六五〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇九円~一一円(TTM)台を予測。

スクランブル購買価格に関しては据え置きから五円高程度と予測している。

◇ COMEX銅在庫

五日 四万五、六八七トン

変わらず